

特別活動（学級活動）学習指導案

指導者 学級担任

1 グループのの実態「GRABBS」

※PA（プロジェクトアドベンチャー）の参加者把握の手法

目標< Goals > 目標は何か。活動はグループや個人の目標に関連しているのか。

準備< Readiness > グループは活動を行う準備ができているのか。彼ら自身の課題と、それを達成するためのスキルを認識・理解しているのか。

感情< Affect > グループの雰囲気はどうか。仲間同士の共感や思いやりはどうか。

態度< Behavior > グループはどんな行動をしているのか。物事に対して反抗的か？妨害的か？同意や妥協が可能か？

身体< Body > 参加者の身体的な特徴は？疲労気味ではないか？

背景< Setting > グループや個人は、社会環境や家庭環境からくる問題に影響されていないか。

発達段階< Stage of Development > グループとしての発達段階はどのレベルにあるか。

2 授業の実際

(1) 実施について

- ① 対象児童…小学6年生（39名）
- ② 日時・場所…平成21年6月・教室
- ③ 学習形態…学級全体の活動

(2) 題材名 「e.x. 自分たちのクラスを自分たちで作ろう」

(3) 題材設定の理由

本学級の児童は、男子18名、女子20名、計38名である。進級にあたってクラス編成が行われており、新しいクラスで6年生として日々を過ごしている。6年生になって2ヶ月余り経ち、学級は落ち着いてきたが、これからさらに最高学年としての自覚を高めるためにも、クラスを自分たちで作りに上げていこうとする意識を高めようとして本題材を設定した。

(4) 目標

- （感情）自分たちでクラスをよりよくしていこうと、学級作りの意識を高めることができる。
- （行動）自分の経験と体験から、クラスの約束を考え発表することができる。
- （認知）みんなで作り上げた約束を守ること、よりよいクラス作りをしていくのだと理解することができる。

(5) 活動計画（2単位時間）

- ① ねらい クラスの目標と約束を自分たちで作りに上げることで、自分たちのクラスを自分たちでよくしていこうとする意識をもつことができる。（※児童の立場）
- ② 準備物 A4用紙、大きな用紙（大用紙4枚を張りつないで1枚にする）
- ③ 学習の展開

活動の内容	AFPYの視点
1 今回の活動を確認する。 ○ クラスのテーマを確認する。 <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> ※クラスのテーマ ・ 大きな用紙の真ん中にテーマを書く。 </div> 2 テーマに関わる個人の目標を考える。	T クラスのテーマ（目標）を共有する。 T 用紙を大きく貼って活動の準備をする。 C 自分の目標を自分で決めることで、大切

に守ろうとする意識が育つ。

クラスのテーマ（目標）を大切にするための個人の目標を立てよう。

かちっとファイブ

- 手のひらに自分作り
 - ・ A4用紙に手のひらを写す。
 - ・ それぞれの指に、このクラスで自分が大切にしていきたいことを書く（5つ）。
 - ・ 手のひらに、1年間の自分自身の目標を1つ書き込む。
 - ・ 手首の所に自分の名前を書いてそれぞれ小グループで発表する。
- 3 テーマと目標を共有する。

手のひらビーイング

- 手のひらの形を切り取って、大きな用紙に、テーマを取り囲むように貼る。
- 4 活動をふりかえる。
- 全体で気づきを共有する。
 - ・ 今回の活動で気づいたことを発表する。
 - 個人のふりかえりをする。
 - ・ ふりかえり用紙を使って、一人ひとりが活動をふりかえる。

T 指に書くことは、「大切にしたいことベスト5」のように自由に書かせてもよいし、「親指は勉強。人差し指は友だちに対して。」など、テーマを決めて書かせてもよい。

C 小グループで発表することで、一人ひとりが自分の目標を声に出して確認することができ、相手の目標も意識することができる。

T 自分たちのテーマ（目標）を自分たちが大切にするのだという意識を育てるためにも、お互いの指がすきま無く重なってテーマを取り囲むように意識する。すきまが空いた場合は、全員で確認しながらペンで指と指をつないですきまをふさぐ。

C 「感情」「行動」「認知」の3つの項目で活動をふりかえることで、次時の活動に意識をつないでいく。

安心して過ごせるクラスにするための約束を作ろう。

- 1 クラスの約束作りをする。
- 安心できるクラスについて考える。
 - ・ 「あったらいいなこんなこと」
 - ・ 「なくなればいいなあんなこと」
 - 「あったらいいなこんなこと」を共有する。
 - ・ 発表して共有していいかどうか確認する。
 - ・ 確認できたことは大きな用紙の手のひらで囲んだ内側に書く。
 - 「なくなればいいなあんなこと」を共有する。
 - ・ 発表して共有していいかどうか確認する。
 - ・ 確認できたことは大きな用紙の手のひらで囲んだ外側に書く。
- 2 約束を確認する。
- できあがった約束（ビーイング）を一人ひとりが確認して、サインをする。
- 3 活動をふりかえる。
- 全体で気づきを共有する。
 - ・ 今回の活動で気づいたことを発表する。
 - 個人のふりかえりをする。
 - ・ ふりかえり用紙を使って、一人ひとりが活動をふりかえる。

T 言われたい言葉・言われたくない言葉、してほしい態度（行動）・してほしくない態度（行動）、見たい姿・見たくない姿など、テーマを指定して考えさせるとまとまりやすい。

T タックシールなどに書かせると、大きな用紙に貼るだけですむ。前で大きな用紙に書くボランティアを募ると、児童の発表をそのまま転写することもできる。

C 自分たちで確認したことが約束になっていくため、守らなければいけないという意識が育つ。

C 用紙のどこかにサインをすることで、約束を守る承認の証とする。※契約書にサインをする乗り。

C 「感情」「行動」「認知」の3つの項目で活動をふりかえることで、次時の活動に意識をつないでいく。